

3.1.7. その他対策(一例)

IT業界D社では、その他に以下のような対策を行っている。(一例)

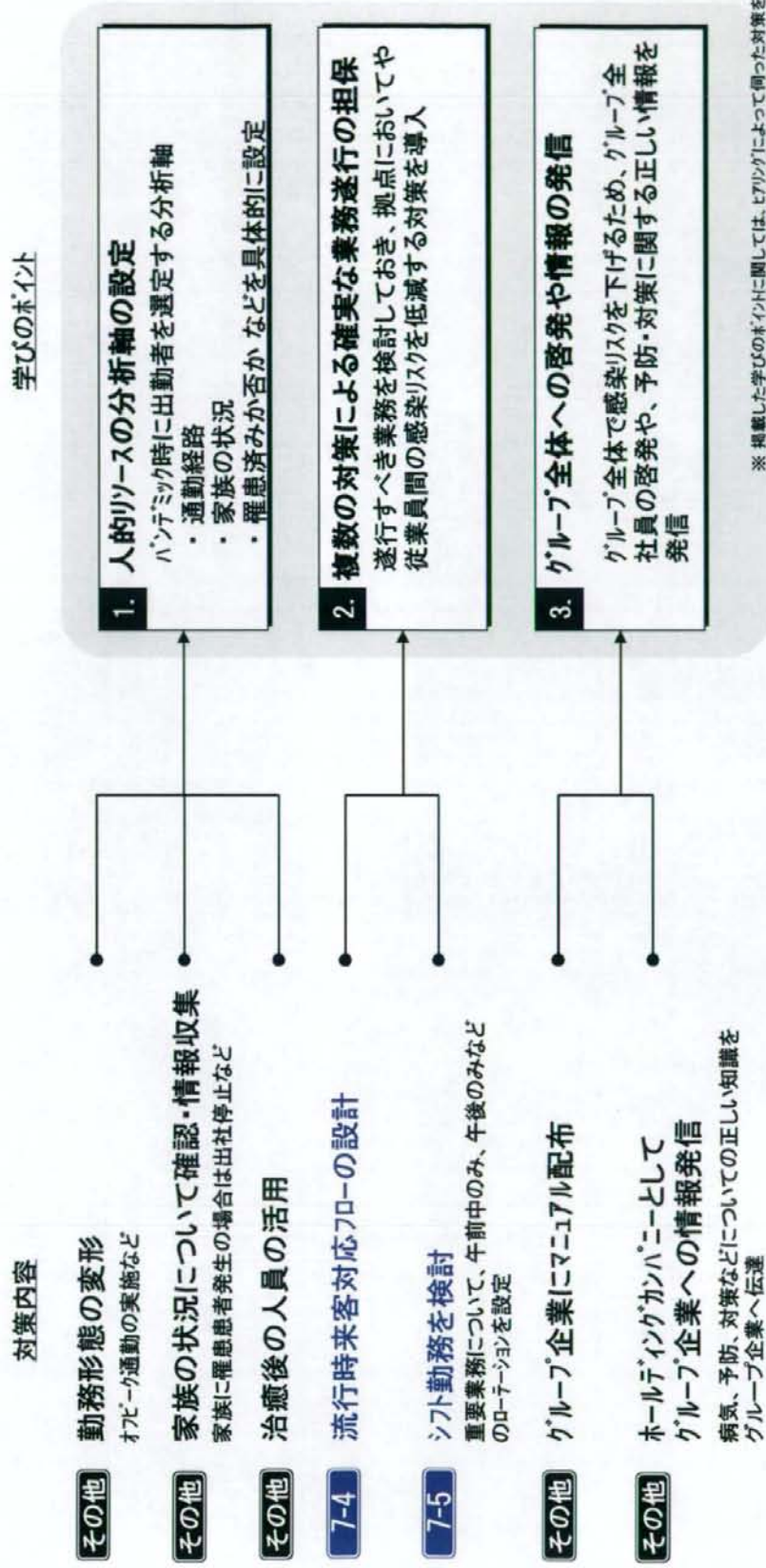
図表. 3.1.7. その他対策(一例)

対策	詳細
既存リスクコンプライアンス体制の活用	<ul style="list-style-type: none"> 従来からのリスク体制のまま、新型インフルエンザを対策項目として追加
複数チャネルからの情報収集	<ul style="list-style-type: none"> WHO、厚生労働省、国立感染症研究所、グラクソ・スミスクラインなど参考情報が記載されたHP
勤務形態の変形	<ul style="list-style-type: none"> オフピーク通勤の実施などを検討
家族の状況について確認・情報収集	<ul style="list-style-type: none"> 家族に罹患患者発生の場合は出社停止などを検討
治癒後の人員の活用	<ul style="list-style-type: none"> 発症後治癒して免疫を獲得し就業可能となった人員の活用も検討
衛生用品の備蓄	<ul style="list-style-type: none"> 自社内での感染予防推進の一環として衛生用品を備蓄
グループ企業にマニュアル配布	<ul style="list-style-type: none"> グループ企業の総務部に情報提供の一環として対策マニュアルを配布
ホールディングカンパニーとしてグループ企業への情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 病気に関する知識や予防・対策などについての正しい情報を迅速に集めて、グループ企業に適切に伝達

3.1.7. 学びのポイント

IT業界D社の新型インフルエンザ対策からの学びのポイントとして、人的リソースの分析軸の設定、複数の対策による確実な業務遂行の担保、グループ全体への啓発や情報発信があると考えられる。

図表. 3.1.7. 学びのポイント



※ 掲載した学びのポイントに関しては、ヒアリングによって得た対策をもとにユーザーシユーズが分析・考察によって導き出したものである。

3.1.8. エネルギー業界E社

3.1.8. エネルギー業界E社の対策

「対策の種類」

「浸透度」

3.1.8. 課題への対策

- ①：エリア特性に合わせた被害シミュレーション
- ②：業務経験者リストの作成
- ③：グループ企業を含めた講演会の実施
- ④：サブライチエーン企業へ自社の取組紹介

3.1.8. その他対策(一例)

3.1.8. 学びのポイント

※掲載した対策や工夫点に関しては、ヒアリングによって何った範囲のものであり、企業が策定している対策全体の一部である。また課題に関しては、インタビューが考察によって導き出した仮説である。

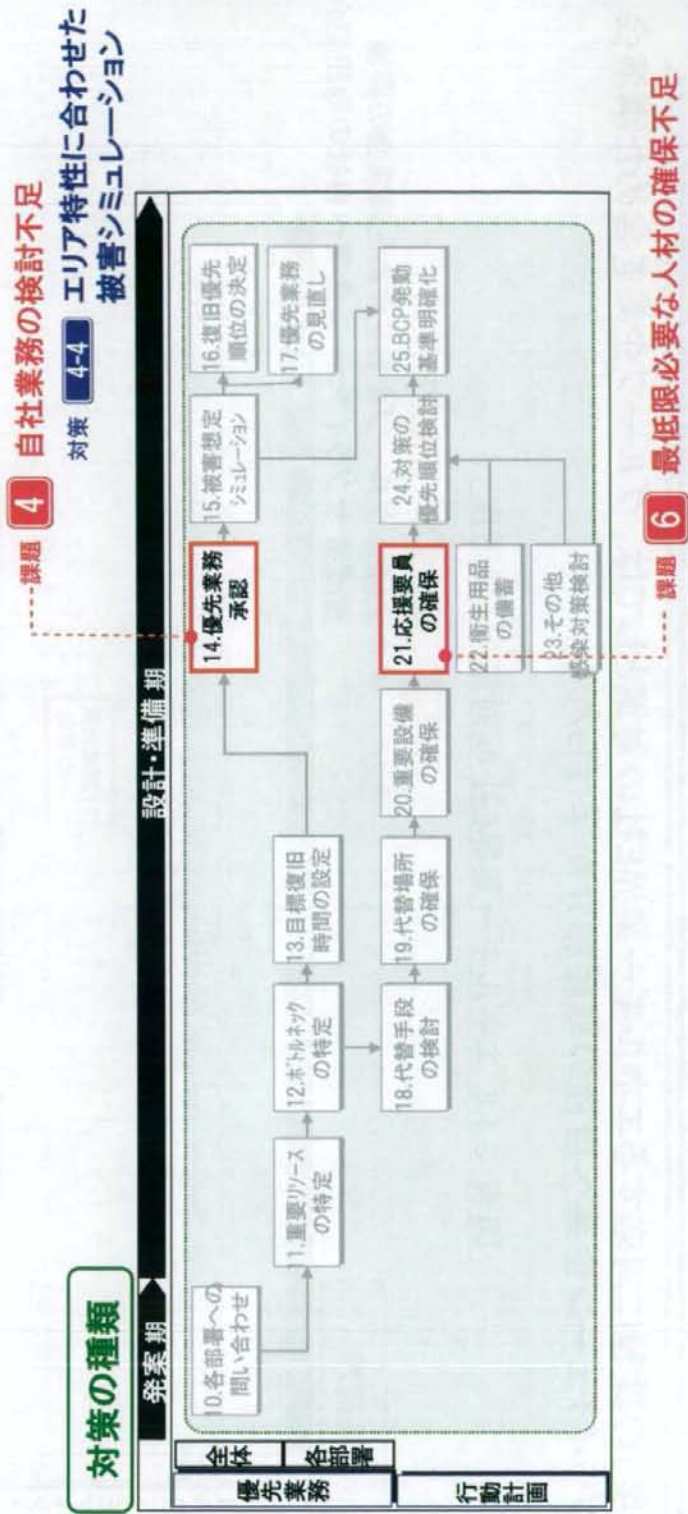
※社名の7桁7桁は、本報告書で企業名の公表を差し控える企業を順に割り振っているものであり、企業名を示唆するものではない。

3.1.8. エネルギー業界E社の対策：

対策の種類

「対策の種類」の課題に対応するエネルギー業界E社の対策として、エリア特性に合わせて被害シミュレーション、業務経験者リストの作成が挙げられる。

図表 3.1.8. エネルギー業界E社の対策：「対策の種類」



※ 課題に関しては、イリュージョンが考察によって導き出した仮説であり、一般的に企業が新型インフルエンザ対策策定の際に持つと思われるものである。特定の企業を持つ課題を指し示すものではない。

3.1.8. エネルギー業界E社の対策：浸透度

また、「浸透度」の課題に対応するエネルギー業界E社の対策としては、グループ企業を含めた講演会の実施、サブライチエーン企業へ自社の取組紹介が挙げられる。

図表. 3.1.8. エネルギー業界E社の対策：「浸透度」



※ 課題に関しては、インタビューが考察によって導き出した仮説であり、一般的に企業が新型インフルエンザ対策策定の際に持つと思われるものである。特定の企業の持つ課題を指し示すものではない。

3.1.8. 課題への対策①：エリア特性に合わせた被害シミュレーション

エネルギー業界E社では、首都東京並びに海外との窓口となる国際空港・港等を供給エリアとしている特性から、当初、国のガイドラインで示されていた被害想定(欠勤率25%が8週間継続)に加え、より大きな被害想定(欠勤率40%が2週間継続)についても、エネルギーを安定して供給する主要業務について早期からシミュレーションを実施していた。

図表. 3.1.8. 課題への対策①：エリア特性に合わせた被害シミュレーション

課題

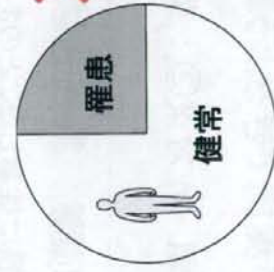
課題 4 自社業務の検討不足

対策 4-4

エリア特性に合わせた被害シミュレーション

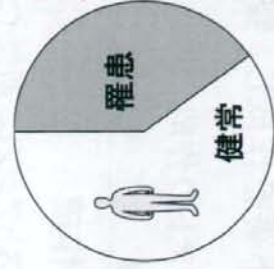
国から当初示された被害想定に加え、国際空港や港が存在しているという供給エリアの特性に合わせた、より大きな被害想定によるシミュレーションを実施

国の想定(当初)



雇 患 率を15%
アッ プ

独自の想定



より高い欠勤率でのシミュレーションを早期に行うことで、被害拡大の場合にも対応

欠 勤 率 : 40%

(2週間継続)

欠 勤 率 : 25%

(8週間継続)

※ 課題に関しては、イリュージョンズが考察によって導き出した仮説であり、一般的に企業が新型インフルエンザ対策策定の時に持つと思われるものである。特定の企業の特許課題を指し示すものではない。

3.1.8. 課題への対策②：業務経験者リストの作成

エネルギー業界E社では、新型インフルエンザが流行した場合においても、エネルギーの安定供給に必要な主要業務を中心に、事業継続が実施できるよう経験者リスト等を作成し、整備を進めている。

図表. 3.1.8. 課題への対策②：業務経験者リストの作成

課題

課題⑥ 最低限必要な人材の確保不足

対策

対策⑥-1 業務経験者リストの作成

業務に従事したことのある経験者をリストアップし、新型インフルエンザ拡大時の対処として整備

業務経験者リスト

部署	業務	業務経験者
〇〇部	運転業務	A, B, C
	お客さま対応	B, D
	⋮	⋮
〇〇部	社内PC管理	E, F, G
	ネットワーク管理	E, G, H
	⋮	⋮

イメーτζ



A

交代・補助員



B

罹患



C

交代・補助員

主要業務従事者の欠勤時に代替可能な候補がすぐ分かる

エネルギーの
安定供給維持

※ 課題に関しては、イメージシナリオが考察によって導き出した仮説であり、一般的に企業が新型インフルエンザ対策策定の際には、思われるものである。特定の企業の持つ課題を指し示すものではない。

3.1.8. 課題への対策③：グループ企業を含めた講演会の実施

エネルギー業界E社では、自社で新型インフルエンザに関する講演会を計画し、まずは社内各事業所並びにグループ企業等のトップ等を対象に新型インフルエンザに対する正しい情報と危機管理意識を高め、大流行時に備えた対策づくりを目的に実施していた。

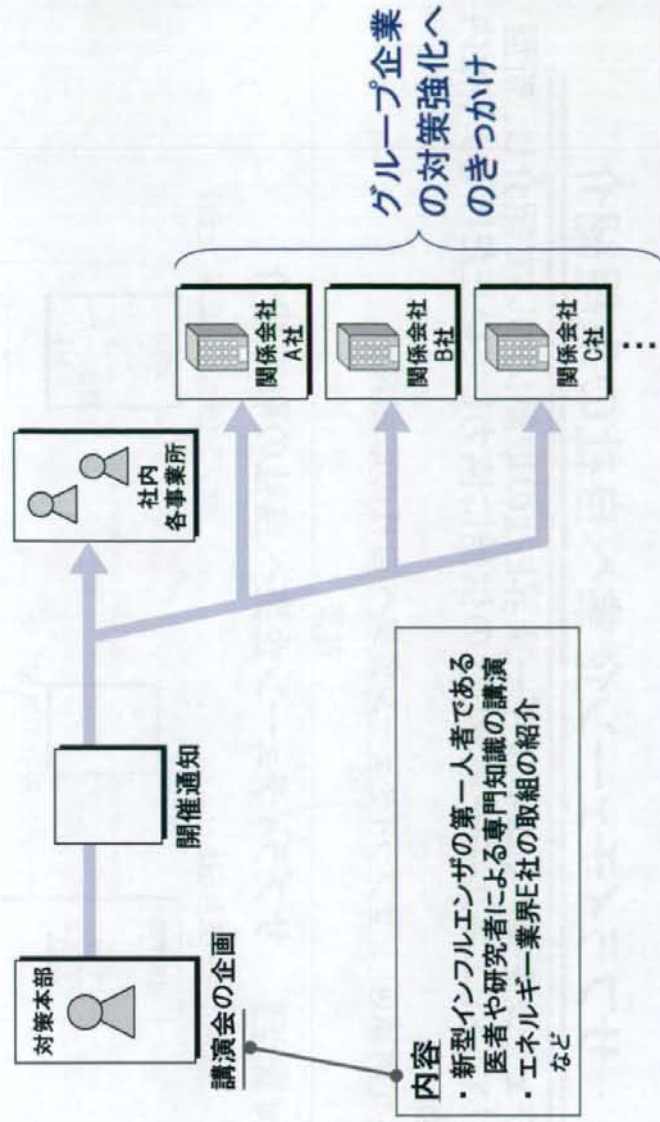
図表. 3.1.8. 課題への対策③：グループ企業を含めた講演会の実施

課題

課題⑩ 関連企業との連携不足

対策

対策⑩-7 グループ企業を含めた講演会の実施



※ 課題に関しては、イノベーションが考察によって講き出した仮説であり、一般的に企業が新型インフルエンザ対策策定の際にとつて思われるものである。特定の企業の持つ課題を指し示すものではない。

3.1.8. 課題への対策④：サプライチェーン企業へ自社の取組紹介

エネルギー業界E社では、サプライチェーン企業へ、エネルギー業界E社の取組について紹介し、新型インフルエンザが流行した場合においても、エネルギー業界E社の供給に協力していただけるよう社内対策整備等のお願いを実施している。

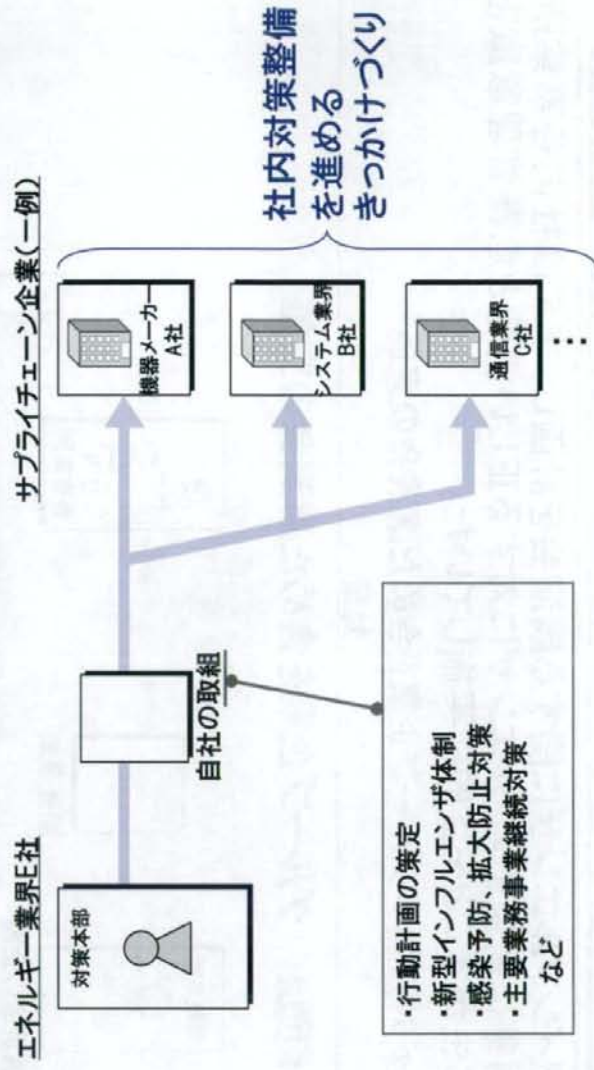
図表. 3.1.8. 課題への対策④：サプライチェーン企業へ自社の取組紹介

課題

課題⑩ 関連企業との連携不足

対策

対策 10-8 サプライチェーン企業へ自社の取組紹介



※ 課題に関しては、インタビューが考察によって導き出した仮説であり、一般的に企業が新型インフルエンザ対策策定の際に持つと思われるものである。特定の企業の持つ課題を指し示すものではない。

3.1.8. その他対策(一例)

エネルギー業界E社では、その他に以下のような対策を行っている。(一例)

図表. 3.1.8. その他対策(一例)

対策	詳細
全社で方針を統一	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本社で対策の方針を決定し、社内関係事業所へ展開
国際部を中心とした対策本部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海外発生時には、国際部を中心とした海外緊急事態対策本部を立ち上げる態勢を検討(国内対策本部も前倒しで実施)
全従業員分の対策用品備蓄	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対策用品として、サージカルマスク・N95マスク・ゴーグル・アルコール消毒薬・体温計・防護服等を備蓄 ・ 特にサージカルマスクについては、エリア特性も考慮し全従業員の10週間分を備蓄
安否確認システムの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発生時には、独自にもっている安否確認システムを活用し、従業員・その家族等の状況把握を実施する予定
入館時の体温測定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発生時には、事業所内での感染拡大を防止するため、例えば建物入館時に入り口部分で検温等のチェックを実施し、また、入館後の一定時間ごとにも検温も実施する予定
対策用品の社内割引販売	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族の対策を充実させるため、社員の自己責任のもとに対策用品が揃えられるよう、全従業員に対して、対策用品を割引販売できることを、社内イントラネット等を通じて紹介
全従業員への対策マニュアル配布	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型インフルエンザの特集を組んだ社内報や対策マニュアルを全従業員並びにOB等にも配布し、家庭における対策についても呼びかけ
全従業員にeラーニングの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全従業員に対して、新型インフルエンザ対策のeラーニングを実施。(対策マニュアルなどに目を通したか、対策用品の紹介を知っているか等、実施率が悪い事業部については、管理職から実施してもらおうよう働きかけをお願い)

3.1.8. 学びのポイント1/2

エネルギー業界E社の新型インフルエンザ対策からの学びのポイントとして、対策の全体最適化・部分最適化、従業員欠員の迅速な把握と対策があると考えられる。

図表. 3.1.8. 学びのポイント1/2

対策内容

学びのポイント

その他

全社で方針を統一

本社で対策の方針を決定し、支店・支社へ展開

4-4

エリア特性に合わせた被害シミュレーション

国の想定より大きな被害における業務継続のシミュレーションを実施

その他

安否確認システムの活用

6-1

業務経験者リストの作成

各業務の経験がある従業員のリストを作成し欠動に対応

1. 対策の全体最適化・部分最適化

全社で対策の方針を統一するといった全体最適を図りつつ、シミュレーションによって得た業務エリアごとの被害想定に対する対策を立案

2. 従業員欠員の迅速な把握と対策

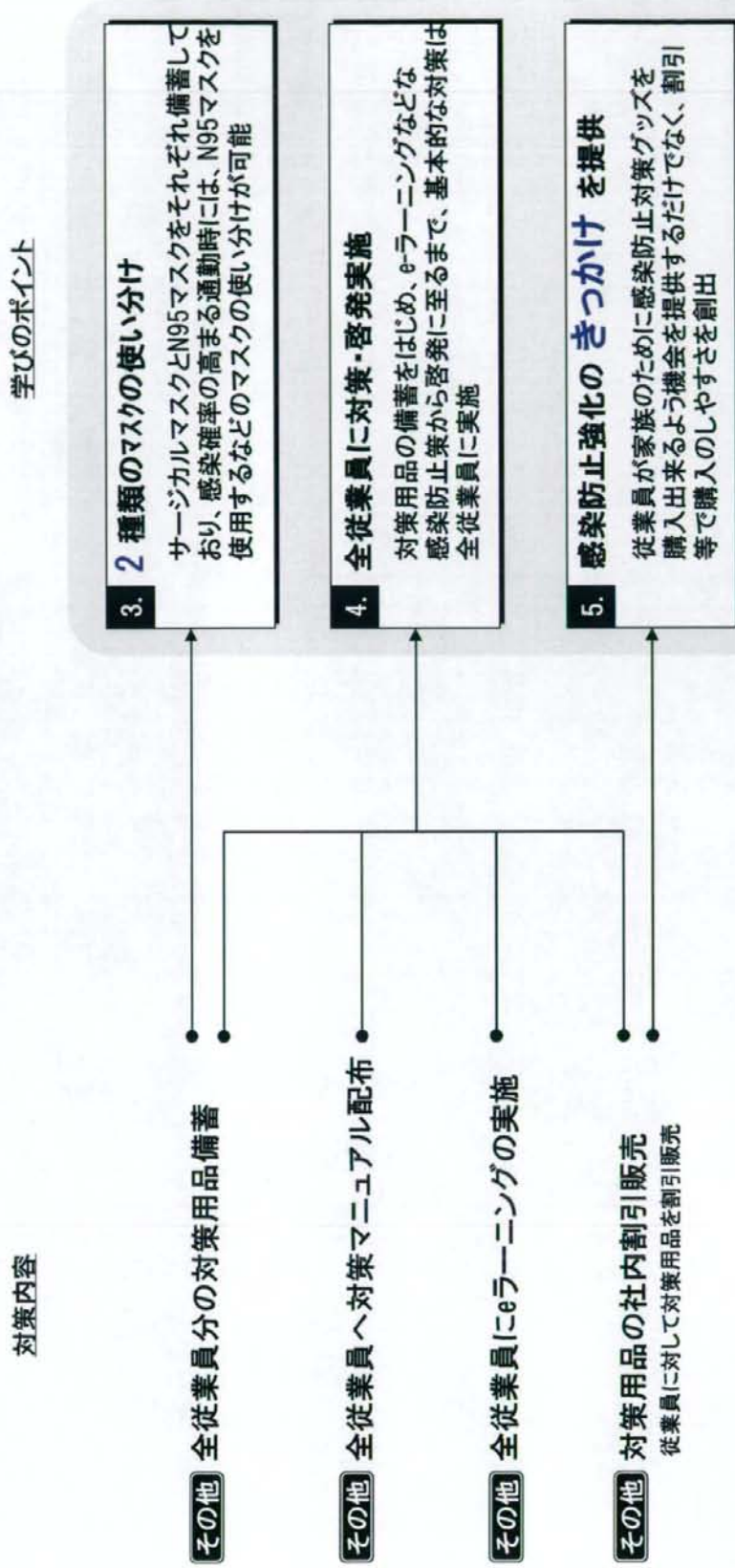
パンデミック発生時に、従業員の安否を確認するシステムと、業務経験者リストで欠員への迅速な把握と対応

※掲載した学びのポイントに関しては、ピアリングによって得た対策をもとにイノベーションが分析・考察によって導き出したものである。

3.1.8. 学びのポイント 2/2

また、2種類のマスクの使い分け、全従業員に対策・啓発実施、感染防止強化のきっかけを提供も学びもポイントとしてであると考えると考えられる。

図表. 3.1.8. 学びのポイント 2/2



※掲載した学びのポイントに関しては、ヒアリングによって得た対策をもとに、インタビューが分析・考察によって導き出したものである。

3.1.9. 日本生命

3.1.9. 日本生命の対策
「対策の種類」
「浸透度」

3.1.9. 課題への対策

- ①：代替要員の確保
- ②：シフト勤務
- ③：ビル入館体制の策定
- ④：ビル入館者確認フローの策定
- ⑤：対策用品の購買幹旋
- ⑥：社内外の感染状況に関する情報収集
- ⑦：事業継続に要する社外リソース分析
- ⑧：全支社・全拠点への予防指導

3.1.9. その他対策(一例)

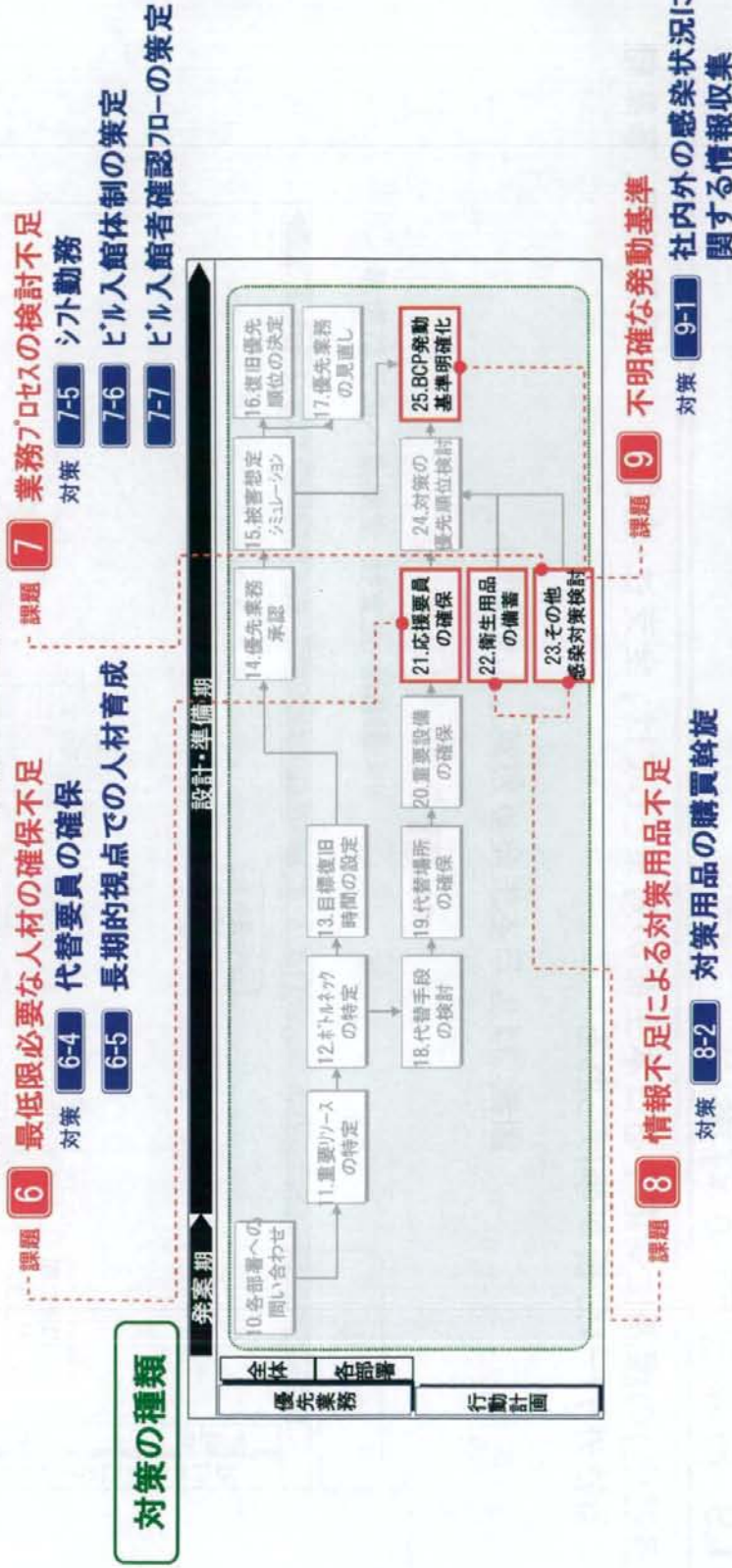
3.1.9. 学びのポイント

※掲載した対策や工夫点に関しては、ヒアリングによって同った範囲のものであり、企業が策定している対策全体の一部である。また課題に関しては、インタビューが考察によって導き出した仮説である。

3.1.9. 日本生命の対策：対策の種類

「対策の種類」の課題に対応する日本生命の対策として、代替要員の確保・人材育成や、シフト勤務、ビル入館体制やビル入館者確認フローの策定、対策用品の購買幹旋、社内外の感染状況に関する情報収集が挙げられる。

図表 3.1.9. 日本生命の対策：「対策の種類」

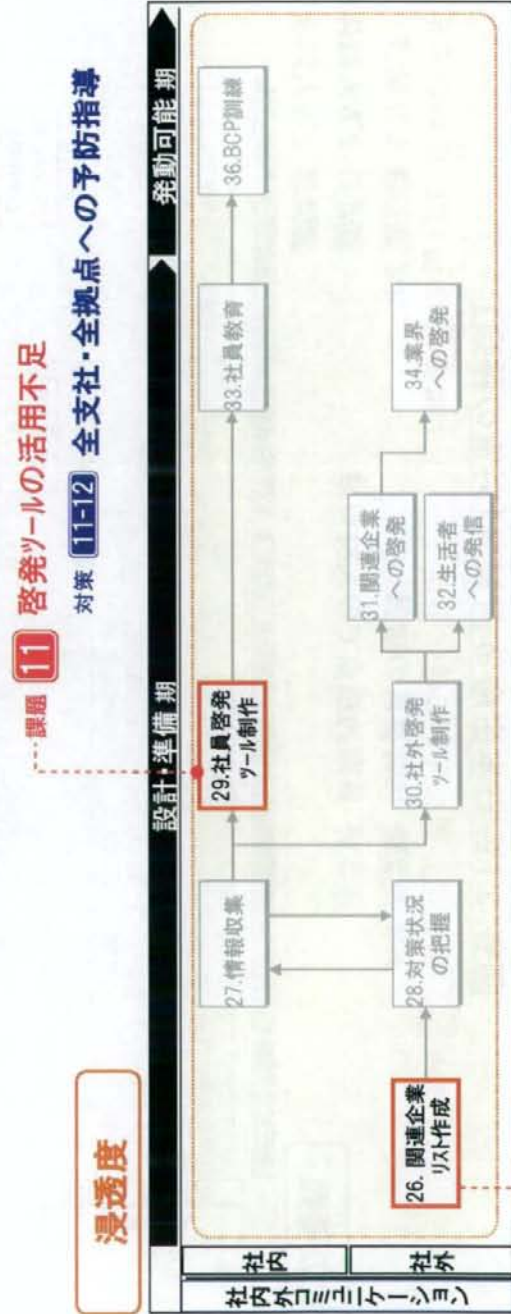


※ 課題に関しては、インタビューが考察によって導き出した仮説であり、一般的に企業が新型コロナ対策策定の際に持つと思われるものである。特定の企業の特許課題を指し示すものではない。

3.1.9. 日本生命の対策：浸透度

また、「浸透度」の課題に対応する日本生命の対策としては、全支社・全拠点への予防指導、事業継続に要する社外リソース分析が挙げられる。

図表. 3.1.9. 日本生命の対策：「浸透度」



●課題 **10** 関連企業との連携不足

対策 **10-4** 事業継続に要する社外リソース分析

---課題 **11** 啓発ツールの活用不足

対策 **11-12** 全支社・全拠点への予防指導

※ 課題に関しては、インタビューが考察によって導き出した仮説であり、一般的に企業が新型インフルエンザ対策策定の際に持つと思われるものである。特定の企業の持つ課題を指し示すものではない。

3.1.9. 課題への対策①：代替要員の確保

日本生命では、ハンデミック時における優先業務の出勤率を想定し、必要な代替要員を算出しており、査定業務等の専門性が求められる業務については、遂行できる人材を確保している。

図表. 3.1.9. 課題への対策①：代替要員の確保

課題

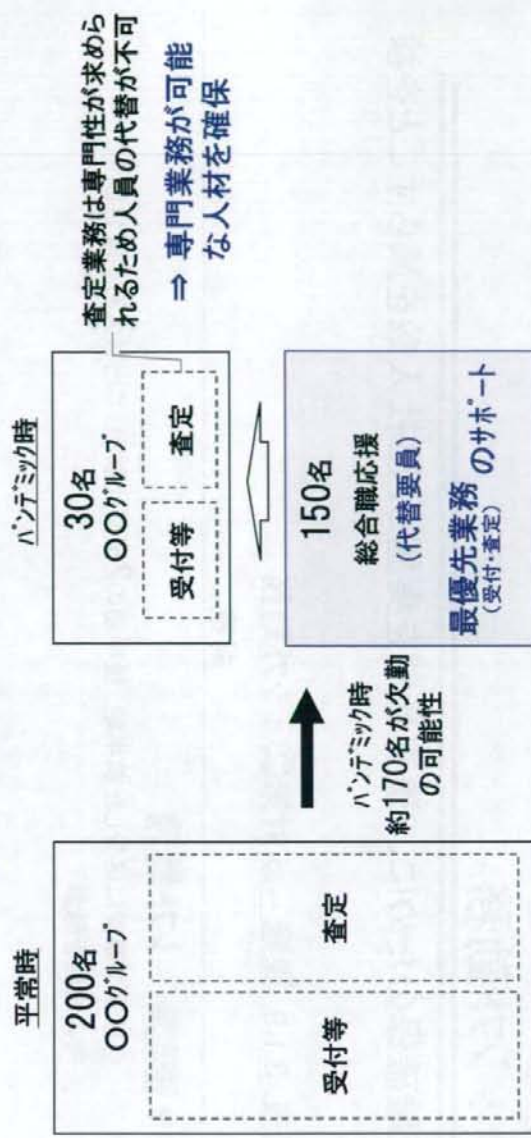
課題⑥ 最低限必要な人材の確保不足

対策

対策 6-4

代替要員の確保

顧客サービス業務の体制(一例)



※ 課題に関しては、イノベーションが考察によって導き出した仮説であり、一般的に企業が新型インフルエンザ対策策定の際にとられるものである。特定の企業の持つ課題を指し示すものではない。

3.1.9. 課題への対策③：ビル入館体制の策定

日本生命では、発生時に使用するビル、入口を限定した入館体制を策定している。

図表. 3.1.9. 課題への対策③：ビル入館体制の策定

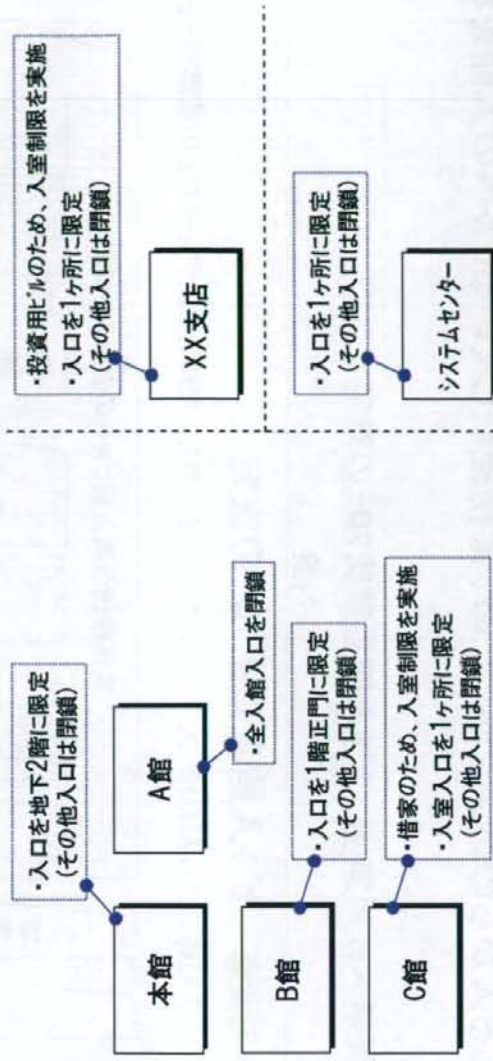
課題

課題⑦ 業務プロセスの検討不足

対策

対策⑦-6 ビル入館体制の策定

・発生時に使用するビル、入口を限定し、入口で検温をするなどの入館体制を策定



※ 課題に関しては、イノベーションが考察によって導き出した仮説であり、一般的に企業が新型コロナ対策策定の順に待つと思われるものである。特定の企業の持つ課題を指し示すものではない。

3.1.9. 課題への対策④：ビル入館者確認フローの策定

日本生命では、発熱などの症状がある人からの感染を防ぐため、業務継続しているビルへの入館を制限するフローを策定している。

図表. 3.1.9. 課題への対策④：ビル入館者確認フローの策定

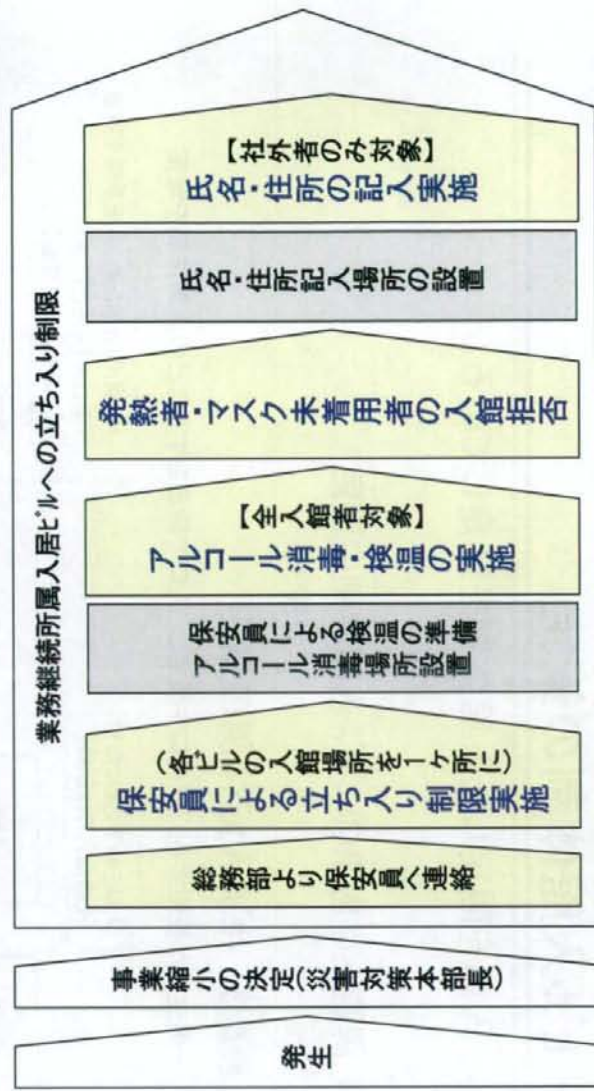
課題

課題 7 業務プロセスの検討不足

対策

対策 7-7 ビル入館者確認フローの策定

- ・ 入館時の立ち入り制限や、アルコール消毒・検温の実施、発熱者の入館拒否などの確認フローを策定



※ 課題に関しては、イノベーションが考察によって導き出した仮説であり、一般的に企業が新型コロナウイルス対策策定の際にとられるものである。特定の企業の持つ課題を指し示すものではない。

3.1.9. 課題への対策⑤：対策用品の購買幹旋 1/2

日本生命では、全従業員に対して健保による対策用品の推奨を行い、割安価格で販売している。

図表. 3.1.9. 課題への対策⑤：対策用品の購買幹旋 1/2

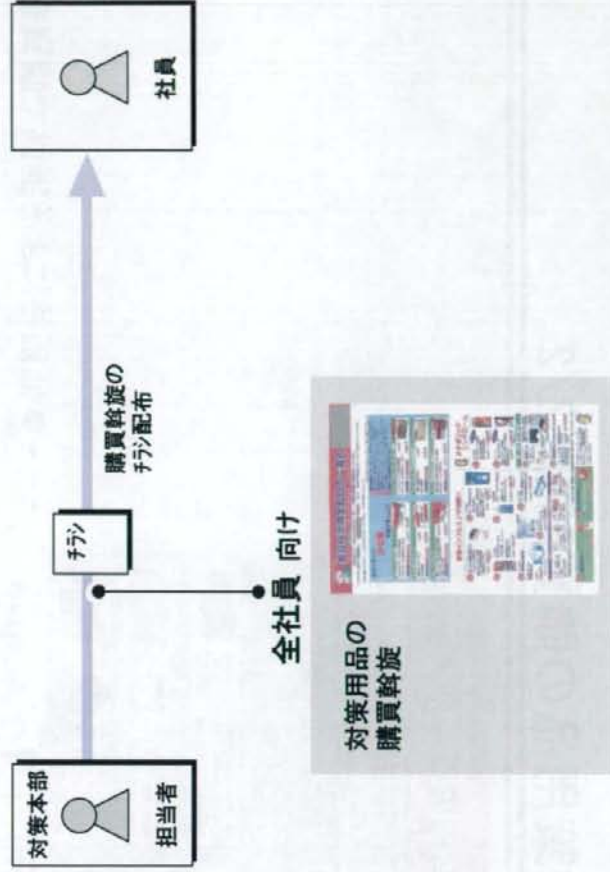
課題

課題 8 情報不足による対策用品不足

対策

対策 8-2

対策用品の購買幹旋



※ 課題に関しては、イノベーションが考察によって導き出した仮説であり、一般的に企業が新型インフルエンザ対策策定の際に持つと思われるものである。特定の企業の持つ課題を指し示すものではない。